

理財部会長報告

第2回理財部会総会は、11月17日ホール80で開催し、19名が参加いたしました。

今回は、ゲストに(株)秋田銀行執行役員証券国際部長兼海外ビジネスサポート室長佐藤雅彦氏を迎え、「秋田—台湾の架け橋～秋田銀行台北駐在員事務所～」をテーマに懇談しました。

佐藤部長は、はじめに台湾の基本概況を説明。台湾は九州地区とほぼ同じ面積に約2倍(2,346万人)の人口が集積している。台湾の輸出先は中国が25.4%で最も多く、日本は6.9%を占めており、日本への輸出主要品目は電子製品・部品などとなっている。輸入は、2013年まで日本が最大の輸入国であったが、2014年に中国に逆転され日本は2位となっている。日本からの輸入主要品目は機械・電子製品・化学品となっているが、日本産食品にとっては香港、米国に次ぐ第3の市場であり、農林水産物からアルコール飲料まで幅広く輸出されている。

秋田銀行の台湾への取り組みは2013年中国信託商業銀行と業務提携を行い、その後、交流ミッションの実施や台湾や日本でそれぞれビジネスセミナーを開催するなど近年積極的に交流を行ってきた。また、取引先からの海外展開の取引相談についても、従来は中国への取引希望の相談が一番多かったものの、最近では台湾の取引希望の相談が増加したことから、そうしたニーズに応えるため10月7日に台北駐在事務所を開設した。

駐在事務所は3名体制で、台湾の経済・金融・貿易事情等の情報収集のほか、取引先の台湾市場への進出およびビジネスマッチングの支援、秋田県と台湾の技術・サービス・観光等の各種産業分野での交流促進等を行うことを目的としている。台湾市場は法規制や商取引がしっかりしており、市場リスクが低くまた日本文化への寛容性があることから、海外進出のテストケースとしても適している。取引先には台湾で海外展開の経験を踏まえ、将来的には中国や東南アジアなどにマーケットを拡大していただきたい、と述べられました。

質疑応答では参加者から「台湾から本県への観光客誘致について、紅葉や樹氷等季節的な特徴をPRすれば観光客誘致の可能性はあるものか」との質問があり、佐藤部長は「本県の認知度は低いもののまだまだ開拓の余地があり、可能性はあると思われる。事務所開設の際にレセプションでなまはげ太鼓を披露したところ大変好評であったため、台湾の方々にはアトラクション的なものも商品化すると面白いと思う」と述べられました。

引き続き、任期満了に伴う正副部会長の選任について協議し、次のとおり選任いたしました。

【選任結果】

部会長	藤原清悦	(株)秋田銀行	相談役
副部会長	佐々木忠夫	秋田共立(株)	代表取締役社長
	丹哲男	(株)秋田グランドリース	代表取締役社長
	村山公雄	(株)秋田国際カード	代表取締役社長
	平野敬悦	秋田信用金庫	理事長
	北林貞男	秋田県信用組合	理事長
	河野通隆	アクサ生命保険(株)秋田支社	支社長
	岡田一郎	(株)損害保険ジャパン日本興亜秋田支社	支店長
	太田好哉	野村証券(株)秋田支店	支店長

以上が、理財部会からの報告です。